

国語科学習指導案

日時 平成23年5月27日(金) 2校時

対象 1年3組(男子20名 女子20名 計40名)

指導者 教諭 渡辺 治

1 単元名 附属中の魅力を伝えよう

2 単元設定の理由

(1) 教育的意義

現代は情報伝達手段の多様化により、多種多様な情報を容易に手に入れることができるようになり、わたしたちはより豊富な知識を得ることができるようになった。その一方で、あふれる情報から本当に自分が必要とする情報を取捨選択する力や、情報の真偽・信用性を見抜く力をより強く求められるようになってきている。また、情報化が進んだ現代社会においては、自分の思いや考えを発信することも手軽にできるようになった。その結果、十分な相手意識をもたずに、言葉を吟味しないまま自分の思いや考えを話したり書いたりしてしまう人も増えてきている。

このような状況は中学生も例外ではなく、インターネットなどから知り得た偏った情報や友達間のうわさ話を、疑うことなく信じ込んでしまう生徒も少なくない。また、相手がどのように受け止めるかを深く考えないまま、自分の一方的な思いや考えを手紙やインターネット上に書いたり、友達に話したりしてしまうことによって、相手を傷つけてしまう生徒もいる。

そこで、自分が集めた情報を基に、伝えたい事実を相手によりの確に伝わるように書く活動を通して、自分の目的や意図、伝えたい相手に応じて、情報を整理・分類及び取捨選択する力を身に付けさせるとともに、伝えたい相手によりの確に伝わるように工夫して書こうとする態度を身に付けさせたいと考えて本単元を設定した。

具体的には、創立60周年を迎える附属中を紹介するリーフレットを作るという学習活動を行わせる。入学して間もない一年生は、附属中の生活や行事、伝統といったものに対する関心が高く、リーフレットで紹介する附属中の魅力について意欲をもって主体的に情報を集めることができると考える。また、リーフレットとは、限られた紙面を有効に使って、自分が伝えたいものの魅力を相手によりの確に伝えるためのものである。そのためには、取り上げる事柄や内容が精選されたものでなければならず、目的や伝えたい相手に応じて、本当に伝えるべき情報を取捨選択し、さらに、より分かりやすく伝えるために構成や記述を工夫して文章を書く必要がある。

このような活動を通して生徒は、多様な情報の中から必要な情報を正確に受信する力や、受信した情報を基に、自分が伝えたいことを的確に発信する力を身に付け、社会生活に生きてはたらく「ことばの力」を高めることができるものとする。

(2) 社会的意義

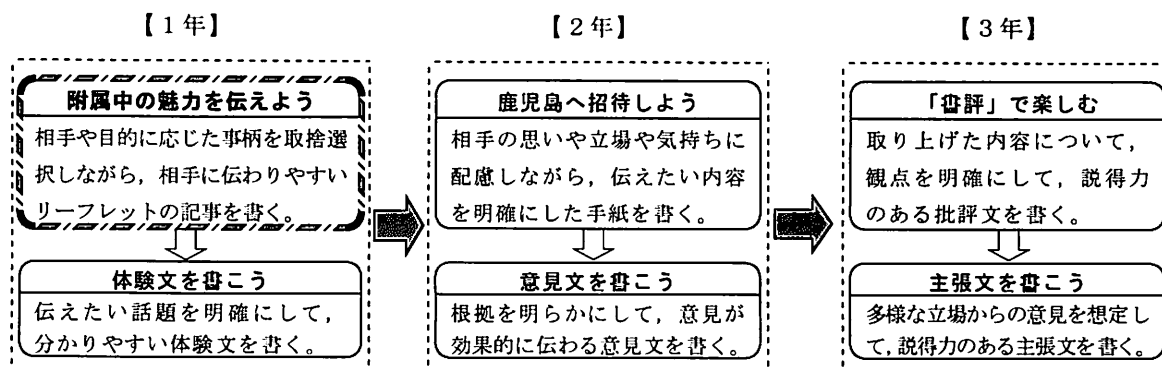
情報伝達手段の多様化した現代社会においては、他者に向かって情報を発信することが容易にできるようになってきた。そのため、自分の思いや考えを相手や場に応じて、より分かりやすく的確に伝える力が必要とされている。

一方で、「メール」や「ブログ」などを介した人間関係の問題が表しているように、容易に発信した情報によって、意に反して相手を傷つけてしまったり相手に誤解を与えてしまったりすることが増えてきた。これは、「相手がどのような情報を求めているか」「情報を受け取った相手がどのような思いを抱くか」など、情報を受け取る相手の思いを十分に察することができないままに情報を発信してしまう人が増えてきていることを表している。

このような社会にあって、自分の思いや考えを一方的に書くだけでなく、情報を受け取る相手の思いまで十分に考慮した上で、本当に伝えるべき内容を取捨選択し、相手により分かりやすく伝えるために構成や記述を工夫しながら書く学習をさせることは有意義なことであると考え。

(3) 連関的意義

本単元は、ねらいと教材・学習活動の構成の系統とにおいて以下のような関連をもつ。



3 単元の目標及び評価基準

【単元の目標】

- (1) 学習に進んで取り組み、集めた情報を積極的に整理・分類、取捨選択しようとしたり、その情報を基に相手により分かりやすい文章を書こうとしたりすることができる。(国語への意欲・関心・態度)
- (2) 目的をもって相手の話を聞き、自分なりの考えや疑問をもつことができる。(話す能力・聞く能力)
- (3) 集めた情報を目的や意図、伝えるべき相手に応じて整理・分類及び取捨選択し、相手により分かりやすいように構成を考えながら文章を書くことができる。(書く能力)
- (4) 本や文章などから、自分に必要な情報を読み取ることができる。(読む能力)
- (5) 全体に対するそれぞれの文字の大きさや配列などに注意して、字形を整えながら書くことができる。(言語についての知識・理解・技能)

具体的には次に掲げる内容を重点的に指導する。

評価の観点	評価基準	学習指導要領との関連
国語への関心・意欲・態度	① 進んで書物を調べたり、人に話を聞いたりしながら、より多くの情報を集めようとしている。 ② 相手により分かりやすく伝わるように、進んで情報を整理・分類及び取捨選択した上で、構成を工夫して文章を書こうとしている。 ③ 相手が読みやすいように、大きさや配列などに注意して丁寧に文字を書こうとしている。	
話す・聞く能力	④ 先輩や友達の話を聞きながら、要点を的確に記録したり、疑問に思ったことを書き出したりしている。	エ 聞くこと
書く能力	⑤ 目的に応じた情報を、書物やインターネットなどを活用したり、人に話を聞いたりしながら、より多く集めている。 ⑥ 構造図を活用して、集めた情報を整理・分類及び取捨選択し、書こうとする事柄のまとめや順序を明確にしながら文章を書いている。 ⑦ 互いの文章を読み合いながら、自分の文章の表記や語句の用法、叙述の仕方確かめて、読みやすく分かりやすい文章に書き直している。	ア 課題設定や取材 イ 構成 エ 推敲
読む能力	⑧ 自分の必要とする情報を集めるために、書物や資料、インターネット上の文章などを読んでいる。	カ 目的に応じた読書
言語についての知識・理解・技能	⑨ 紙面にふさわしい文字の大きさや書くべき位置を考えて、適切な筆記用具を選択しながら、丁寧に文字を書いている。	(書写)

4 単元の指導計画

(1) 単元設定の視点

ア 生徒の実態から

本学級は、「書くこと」の学習において、次のような実態が見られる。

- ・ 自分の思いや考えを書くことに積極的に取り組む生徒が多いが、文章を書くこと自体に抵抗を感じている生徒もいる。
- ・ 相手に伝えたい内容はたくさんもっているものの、その中から本当に伝えるべきものを取捨選択して書き出すことができずに、焦点化されていない文章を書く生徒がいる。
- ・ 多くの生徒が読み手に伝わりやすいように構成などを工夫して文章を書こうとしているが、自分の思いや考えを読み手に伝わりやすい適切な文章として書くことができない生徒もいる。
- ・ 伝えたい思いや事実をうまく整理しながら適切な分量の文章を書くことができる生徒が多いが、自分の思いや事実を思いついたままに記述していき、適切な分量を超えて文章を書いてしまう生徒もいる。

このような実態から、指導に当たっては、「構造図」を用いた文章構成表の工夫と活用を行うことによって、書くことへの抵抗を少なくするとともに、相手意識を明確にもたせた上で、本当に相手に伝えるべき内容を取捨選択し、相手によりの確に伝わりやすいように構成を工夫しながら文章を書く力を身に付けさせていきたい。

イ 指導上の手だて（本校の研究内容との関連から）

① 「関係付け」による思考の広がりや深まりを促す学習活動の工夫

本単元で取り上げるリーフレットに限らず、文章を書く場合はどのような相手に向けて書くのかを明確にもつ必要がある。

そこで、本単元では、「自分が伝えたいと思うこと」と「相手が知りたいと思うこと」を関係付けながら、本当に伝えるべき情報を取捨選択していく活動を取り入れることにし、この二つの関係付けを行わせるために「構造図」を利用した文章構成表の活用を行うこととした。

具体的には、構造図の左側には自分が伝えたいと思うことを列挙させる。対して右側には自分が伝えようと思う相手にに関する情報を列挙させる。そして、左側の自分が伝えたいと思うことと右側の相手にに関する情報の中で関係付けられるものを線で結んでいく。この時、線で結ばれたかどうかを、リーフレットに取り上げるかどうかの大きな判断材料とさせていきたい。

さらに、この構造図は伝える事柄や内容、伝える相手の情報などが一目で分かるようになっているため、相手に分かりやすく伝わりやすい文章にするための構成を考える際にも活用させていきたい。

このように、「関係付け」のための構造図を活用した文章構成表を取り入れることによって、生徒一人一人の思考の広がりや深まりを促しながら、相手意識を明確にもち、よりの確に情報を発信する力を身に付けさせていきたいと考える。

② 「受信」と「発信」の関連を強めた単元構成の工夫

学校を紹介するリーフレットを作成するにあたっては、まず、紹介するための情報をより多く集める必要がある。中学一年生は入学して間もなく、附属中の行事や伝統などに対する興味や関心は高いものの、十分な情報は持ち得ていない。そこで、単元の前半部において、学校を紹介するVTRを見させたり、先輩の話を聞かせたりして、附属中の生活や行事、伝統などについて大まかに理解させることにした。また、さらに調べてみたいと思うことについて、沿革史などの書物やインターネット、教師が作成した資料などを使って調べさせたり、本校の卒業生に話を聞かせたりして、より多くの情報を集めさせたい。

このようにして「受信」した情報を、実際にリーフレットを作成するという「発信」の場を生かすことによって、「聞くこと」「読むこと」と「書くこと」の活動を有機的に関連させることができ、生徒の豊かな思考力を育てることができる考える。

(2) 単元の指導計画 (全9時間)

過程	主な学習活動	時間	指導にあたっての手立て	評価
導 入	1 単元を概観し、学習目標・学習活動を確認する。	1	・ 「附属中を紹介するリーフレットを作る」という最終目標を知らせ、今後の学習活動に見通しをもたせる。	評価規準 ①④ (観察・ワークシート)
	2 学校紹介のVTRを見たり先輩の話の聞いたりして、附属中についてさらに調べたいことやリーフレットで紹介したいことを考える。		・ 附属中の生活や伝統、行事などについて大まかに理解させるために、学校紹介のVTRを見せたり、先輩の話の聞かせたりする。 ・ 紹介したいと思う事柄を中心にメモをとりながら話を聞かせるとともに、さらに詳しく知りたいことをまとめさせる。	
展	3 さらに詳しく知りたいと思ったことについて調べる。	2	・ 生徒が調べやすいように、学校の沿革史や、教師が作成した資料などを準備する。	評価規準 ①⑤⑧ (観察・ワークシート)
	4 附属中について詳しく調べた内容を発表し合う。	1	・ 紹介する記事をより多様な観点から考えさせるために、それぞれが調べてきたことをグループや学級で発表させる。	評価規準 ④⑤ (観察・ワークシート)
開	5 リーフレットで紹介する事柄を決め、記事の下書きを書く。	2 (1/2 が本時)	・ 構造図を活用することによって、自分が紹介したいと思う事柄について整理・分類させる。 ・ だれを対象にしたリーフレットを作るかを明確にし、その相手はどのようなことを知りたいと思うかについて考えさせる。 ・ 伝える相手を意識しながら、リーフレットで紹介する事柄を決め、構造図を活用して記事の下書きを書かせる。	評価規準 ②⑥ (観察・ワークシート)
	6 下書きを基に、リーフレットを完成させる。	2	・ 下書きを自分で読み返させたり互いに読み合わせたりして、より読みやすく分かりやすい文章になるように推敲させた後に、清書をさせる。	評価規準 ③⑦⑨ (観察・作品)
終 末	7 互いのリーフレットを読み合い、意見を交換する。	1	・ 互いにリーフレットを読み合いながら意見や助言を交換させることによって、自分の表現について考えさせる。	評価規準 ⑦ (観察・ワークシート)
	8 分かったことやできるようになったことをまとめる。		・ 構造図を活用することによって、相手により伝わりやすい文章が書けることを確認させる。 ・ 学習診断カードを使って、身に付いた力を確認させる。	

5 本時の実際（5／9）

(1) 指導目標

伝える事柄や目的、相手意識を明確にもちながら、集めた情報を取捨選択し、相手に分かりやすい文章を書く活動を通して、自分が伝えたいことをよりの確に書くことができるようにする。

具体的には、評価規準⑥に即して、次の「書くこと」に関する能力の育成を目指す。

十分達成されている	自分が伝えたい相手や目的を明確に想定し、相手の思いを汲み取った上で、集めた情報を的確に取捨選択し、書こうとする事柄のまとまりや順序を明確にしながら、相手に分かりやすいように書いている。
おおむね達成されている	自分が伝えたい相手や目的を明確に想定した上で、集めた情報を的確に取捨選択し、相手に分かりやすいように書いている。
達成していない生徒への手だて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構造図に着目させ、自分が想定する伝えたい相手と線で結ばれている事柄をリーフレットの記事として取り上げさせる。 ・ 友達の文章を参考にさせたり、構造図に整理された内容をまとめ直させたりしながら、記事の文章を考えさせる。

(2) 目標行動（G）

附属中の魅力を紹介するリーフレットの記事の下書きを、構造図を参考にして、例えば次のようにまとめることができる。

附属中の校庭には7本のイチョウの木が植えられています。これは60年前に旧鹿児島青年師範学校附属中が創立されたときに植えられたものですが、今でも秋になると黄金色に輝き、わたしたちの目を楽しませてくれます。昭和41年に現在の場所に移植された際、7本の木それぞれに附属中の7つの校訓が割り当てられました。この7本のイチョウの木は、60年たった今でも、たくさんの先輩方の思いと附属中の伝統が引き継がれている証なのです。

(3) 下位目標行動

- ① 構造図に書かれた内容を基に、リーフレットの記事の下書きを書くことができる。
- ② 線で結ばれたかどうかを判断材料として、リーフレットに取り上げる事柄を決めることができる。
- ③ 構造図にまとめた「自分が紹介したい事柄」と「紹介したい理由」を、伝えたいと思う相手に応じて加味・修正することができる。
- ④ 自分が実際にリーフレットを通して附属中の魅力を伝えたいと思う相手を、明確に想定することができる。
- ⑤ 自分が取り上げた事柄で、想定される相手と関係付けられるものをそれぞれ線で結ぶことができる。
- ⑥ リーフレットの対象を、例えば次のように具体的に挙げるすることができる。

・ 自分の保護者 ・ 附属中に入学したいと思っている小学生 ・ 創立当初の卒業生
 ・ 40・50歳代の卒業生 ・ 20・30歳代の卒業生 ・ 最近の卒業生 ・ 地域の人々
 ・ 教育実習生

- ⑦ より相手に伝わりやすいリーフレットとするためには、伝える相手を明確に想定し、その相手にふさわしい情報を記事にする必要があることを理解することができる。
- ⑧ リーフレットを通して自分が紹介したいと思う事柄とその理由を、例えば次のように発表することができる。

・ わたしは「7本のイチョウの木」について紹介したいと思います。なぜなら、附属中が創立されたときからあるもので、附属中の伝統を表しているものだと思うからです。
 ・ ほくは「文化祭」について紹介したいと思います。なぜなら、谷山サザンホールという本格的なホールを使って文化祭を行う学校は少なく、附属中の特徴だと思うからです。

- ⑨R 本時の学習目標を「リーフレットに取り上げる事柄を決め、記事の下書きを書こう。」であると確認することができる。
- ⑩R 前時までの学習を振り返り、自分や友達が調べた附属中のよさや特徴について想起することができる。

(4) 目標関連図



(5) 本時の実際

時間	学習過程	指導・援助上の留意点	研究との関連
3'	<p>スタート</p> <p>1 前時までの学習を振り返り、本時の学習目標を確認する。</p> <p>(⑩R, ⑨R)</p>	<p><導入></p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までにまとめたワークシートなどを振り返らせることによって、自分や友達が調べた附属中のよさや特徴について想起させる。 前時までに調べたことを基に、リーフレットに紹介する事柄を決め、記事の下書きを書くことを確認させる。 <p><学習目標></p> <p>リーフレットに取り上げる事柄を決め、記事の下書きを書こう。</p>	<p>① 「関係付け」による思考の広がりや深まりを促す学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自分が伝えたいと思うこと」と「相手が知りたいと思うこと」の関係付けを行わせることによって、相手や目的に応じて、取り上げる情報を的確に取捨選択する力を身に付けさせる。
5'	<p>2 自分が紹介したいと思う事柄を発表する。</p> <p>(⑧)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時までにワークシートにまとめさせた附属中のよさや特徴について発表させることにより、附属中の魅力を伝えたいという意欲を高めさせる。 <p><展開></p> <ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わりやすいリーフレットにするためには、相手を明確に想定し、想定した相手にふさわしい情報を取り上げることが必要であることに気付かせる。 リーフレットを通して附属中の魅力を伝える相手として考えられる対象を多数挙げさせることによって、様々な相手が想定できることに気付かせる。 想定する相手によって興味や関心をもつ事柄が異なるため、その相手に合わせて、取り上げる事柄や内容を選択する必要があることを理解させる。 自分が附属中の魅力を伝えたい相手を、具体的に決めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「関係付け」のための構造図を活用した文章構成表を取り入れることによって、相手意識を明確にもち、よりの確に情報を発信しようとする態度を育てる。
10'	<p>3 リーフレットを通して、附属中の魅力を伝える相手を決める。</p> <p>(⑤, ⑥, ⑦)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 想定される相手と関係付けを行うことができる事柄を線で結ばせることによって、相手意識を明確にもって、リーフレットに取り上げる事柄を決められるようにする。 相手がどのようなことを知りたいかを想像させながら、相手に伝えたい事柄やその理由について、修正したり付け加えたりさせる。 線のつながりの有無を参考にして、リーフレットに取り上げる3つの事柄を選択させる。 	
15'	<p>4 リーフレットに取り上げる事柄や内容を決める。</p> <p>(②, ③, ④)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 選択した事柄について、構造図に整理した内容に基づきながら、記事の下書きを書かせる。 本時においては、一つの記事についての下書きを書くことを目標とさせる。 	
13'	<p>5 取り上げた事柄について記事の下書きを書く。</p> <p>(①)</p> <p>6 下書きを書くことができたか。</p> <p>No 補説</p> <p>Yes</p>	<p><達成していない生徒への手だて></p> <ul style="list-style-type: none"> 構造図に着目させ、伝えたい相手と線で結ばれている事柄をリーフレットの記事として取り上げさせる。 友達の文章を参考にさせたり、構造図に整理された内容をまとめ直させたりしながら、記事の文章を考えさせる。 <p><達成している生徒への手だて></p> <ul style="list-style-type: none"> 一つの記事の下書きについて、接続詞の効果的な使い方などに注目して、より分かりやすい文章になるように推敲させる。 	
4'	<p>7 本時の学習を振り返る。</p> <p>ゴール</p>	<p><終末></p> <ul style="list-style-type: none"> 他の生徒の参考にさせるために、下書きがよく書けている生徒の文章を紹介する。 次時は、本時の学習の続きとして記事の下書きを書くことを確認する。 	<p>② 「受信」と「発信」の関連を強めた単元構成の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を調べたり話を聞いたりして「受信」した情報を、リーフレットを作成するという「発信」の場にかかすことによって、豊かな思考力を育てる。